

鬼	北上市立	館
	の	
だ	よ	り
第3号		



開山面  
(中国江西省石郵村)



■中国の仮面写真展「鬼の源流を求めて」

平成7年8月6日、オープニングセレモニーに続いて、中国江西省舞踏家協会秘書長余達喜さんと神奈川大学助教授広田律子さんによる、展示解説会が催されました。「中国の『儺戯』に用いられる面『開山』は、強い力で邪悪なものを驚かし、鎮める鬼神面です」との解説に、参加者のみなさんは熱心に聞き入っていました。

'95 全国鬼サミット・IN・北上



### 1. 開催の目的

この夏の8月8日～9日に両日に渡って「全国鬼サミット・IN・北上」と題し、第2回全国鬼サミットが鬼剣舞の里であるこの北上市で、全国15自治体47名が集い、開催されました。

鬼サミットは、全国の鬼伝説や民話、地名、民俗芸能などを生かした個性あるまちづくりや地域がネットワークを作り、情報交換や協力体制を組むことにより、相互に発展していくことを目的に開催さ

れたものです。

### 2. 鬼サミットの内容

サミットは、施設見学・鬼サミット・鬼シンポジウムからなり、それぞれ情報の交換を中心に据えたものです。

施設見学では、当市の地域性を生かした鬼の館と民俗村を見学し、鬼の情報館と古来から伝承されている民俗芸能や地域の風俗など、それぞれの肌で感じとって堪能していただくよう配慮し、鬼サミットでは、各自治体や地域におけるまちづくりに関しての事例発表を通じて討論することで、各自治体相互の結束を確認するとともに、まちづくり振興に一層努力し、邁進することを誓った「北上宣言」を満場一致で採択することで、地域振興に対する意識をひとつにするよう努めました。また、このサミットでの内容をさらに高めるために翌日の登壇者である馬場・丸丸・廣田・余の各先生方をまじえて幅広い有意義な情報交流会をもちました。



①鬼サミット (8/8 午後3時～)



③鬼サミット(北上宣言書に調印する長野県鬼無里村)



②鬼サミット (広島県神辺町の紹介)



④情報交流会 (北上市長と馬場あき子氏)

翌9日のシンポジウムは、雰囲気を一変し、一般市民の参加を得て、鬼をテーマとした基調講演と討論会で構成するとともに、登壇者についても鬼に関する研究者を選任し、一般参加者にも容易に理解できるように配慮して進めました。

基調講演は、「日本の鬼」について、北上市に縁が深く、作家・歌人としても名声の高い馬場あき子先生を依頼して豊富な話題を提示しながら解りやすく、おもしろくお話しをしていただきました。討論会では「東アジアの鬼ー中国・韓国・日本ー」と題して門屋光昭氏（鬼の館館長）の進行のもとに馬場あき子・力丸光雄（岩手医科大学教授）・廣田律子（神奈川大学助教授）・余達喜（中華人民共和国）の各先生方によって討論が行われ、鬼の理解が深まりました。

### 3. 鬼サミット北上宣言

次の内容を宣言し、意識をひとつにしました。

一、各自治体、各地域が鬼に関する伝説、郷土芸能



鬼サミット北上宣言書

を最大限に生かし、活力に満ちたまちづくりを進めるため、鬼情報の相互発信に努める。

一、鬼おこし、まちづくりネットワークの拡充・交流のため、全国鬼サミット継続、発展に努める。

### 4. 鬼サミットをおえて

全国には、鬼にかかわりを持つ自治体及び地域が60余箇所ありますが、今回は、北は北海道登別市、南は宮崎県椎葉村・熊本県五和町など15自治体が参加し、活発な情報交流が行われました。このように地域を越え、異なる歴史・風土・文化を有するそれぞれのまちが地域の物産、文化、民俗芸能などを通じて「人」、「物」、「情報」の交流を促進し、地域振興をひとつの目的とした共通意識のもとに集い情報交流をすることは今後さらに必要となり、需要が増すものと考えられます。模索の時代から情報活用の新しい時代へのステップとして、このサミットが参加自治体の地域振興に一役を担ったものと考えます。今後地域を巻き込んだ参加自治体の輪がさらに拡大して行くことを祈念してやみません。



⑤鬼シンポジウム（上、基調公演：下、鬼シンポジウム）



⑥昼食（8/9 みちのく民俗村古民家）



⑦みちのく民俗村見学（8/9 午後1時30分～）

## 写真でみる 鬼の館の上半期

6月1日で満一年を迎えた鬼の館ですが、全国鬼サミットの様な全国規模の催しのほか、9月までに次のような事業を行いました。

### ■記念事業

- ・開館一周年記念セレモニー（6月3日）
- ・鬼剣舞三世代交流会
- ・餅つき



### ■企画展

- ・中国の仮面写真展－鬼の源流を求めて [表紙]  
8月6日～9月10日

### ■教育普及活動

- ・鬼っこわんぱく講座  
[鬼の絵本づくり]  
7月9日・23日・30日  
親子で作る鬼の絵本。  
お父さんの活躍も目立ちました。



### ■鬼学講座

- [北の鬼]（第1回8月27日）
- ・東北の鬼の原像をさぐる5回の講座。  
20代から60代と幅広い受講生。



### ■鬼の館芸能講演（毎月第4日曜日）

- ・鬼剣舞を中心とした民俗芸能の公演。  
見どころをわかりやすく解説。



### ■共催事業

- ・第2回北上市大乘神楽大会（6月4日）  
雨天のため、テラスにて開催  
企画展示室で、出演神楽の権現様や面を展示。

～ありがとうございました～



- エドヒガンザクラの寄贈・植樹 NTT様(写真)
  - カイズカイブキの寄贈・植樹 加藤ミサ様
  - いちいの寄贈(開館一周年記念植樹) 田村トシ様
  - 獅子頭の寄贈 高橋富芳様
  - ハイビジョン機器の提供 北上郵便局様
- 全国鬼サミット開催期間中、鬼の館エントランスホールにてハイビジョン映像「鬼を見た」を放映。

平成7年第2回企画展

# 岩手の河童たち

10月15日(日)～11月26日(日) 企画展示室にて

川には河童多く住めり。  
猿が石川ことに多し。

『遠野物語 第55話より』

岩手には、川のあるところには必ずと言っていいほど河童の伝説が残されています。

語り伝えによると、河童は、川に住む妖怪で、子どものような姿をし、頭に皿、背に甲羅をもち、手足に水掻きを備えているといわれます。

また、馬や小さな子を川に引き込み、尻のあなから肝を抜き取る奇怪な悪さをする一方で、相撲の相手をねだる人なつこさもあり、あるときは人間に捕らえられて逆に詫び証文を取られたりする滑稽なものとしても描かれています。河童は、鬼と同様、想像上、伝承上の生き物ですが、その存在感や存在の足跡は、他の妖怪変化を凌ぐものがあります。

本企画展は、そうした河童の姿を、岩手に伝承されている絵巻物や造型物、詫び証文などの伝世品か



常堅寺のカッパこま犬 (遠野市)

ら浮かび上がらせ、民話の伝承地に探ってみようというものです。

### ※おもな展示資料

- ・水虎図 [年代不詳] 盛岡市中央公民館 蔵 (南部家伝世の河童絵画)
- ・横田膏薬・道具 陸前高田市立博物館 蔵 (河童が伝えた膏薬)
- ・河童の伝承地地図
- ・河童の玩具 など

## ～ようこそ10万人目のお客さま～

鬼の館は、開館して432日目の8月6日、10万人目のお客さまをお迎えしました。

10万人目となられたのは、宮城県仙台市からおいでの工藤万紀子さんと、ご家族3人でのお来館。「テレビで幸運な人を見たことはあるけれど、まさか自分が…」とたいへん驚かれ、門屋館長から記念の鍔物の鬼剣舞面を贈られ喜びいっぱいでした。



工藤さんご一家

芝の上にひるがへり狂ふ鬼剣舞  
縄文の世を思はしめつつ  
足踏みて悪霊を払ふ呪ひの  
反閨に仮面の鬼高く跳ぶ

日本現代詩歌文学館館長の扇畑忠雄東北大学名誉教授より、鬼の館で詠まれた短歌二首が寄せられました。歌は、名刺に即興で記されたもので、五月二十八日大岡信さんらとともに、文学館賞の贈賞式の後、当館で鬼剣舞をごらんになり詠まれたものです。



扇畑ご夫妻 (展示室にて)

## 鬼学ノート

仮面にさぐる  
鬼の原像

千葉 淳子

## はじめに

鬼の館には、日本国内をはじめインド、インドネシア、タイ、ネパールなど諸外国の鬼の面140点あまりが展示されて、訪れる方々を怖がらせたり楽しませたりしています。

鬼と言うからには、恐ろしげな形相で人を睨み、頭には角を生やし、牙をむいている、そんな鬼の中の鬼という面がたくさん並んでいます。中には睨み合うとどっと吹き出してしまうようなおかしな風貌の鬼もいます。実に様々な鬼がいるものだと感心されることしきりです。

百鬼百様。今回の鬼学ノートでは、面に表現された鬼から人の心の中にすむという「鬼」のすがたを探ってみましょう。

## 1. 日本の仮面

日本には、「能面」という非常に洗練された仮面を用いる芸能があります。能面は、「めん」と呼ばず、「おもて」と呼ばれ、ひとつのおもてが、演ずる者のわずかな動きによって喜怒哀楽を表現できるとまで言われています。

能面は、狂言面とともに、中世・近世にわたって武士によって育てられた仮面です。

日本の仮面には、能面や狂言面のように中世・近世にわたって、武士によって育てられた芸術的、美術的に非常に洗練された仮面がある一方で、庶民の間で作られ出された素朴な仮面があります。

庶民の面とも言うべきこれらの仮面は、非常に変化に富んでいて、全く同じ顔つきというものはなく、信仰を伴い、面自体が魔除けや呪術的な意味合いを持つものが少なくありません。

そして、この庶民の仮面のなかに、千差万別、百鬼百様の鬼の面が数多くふくまれているのです。

そして、全国的な広がり分布しています。

例えば、愛知県奥三河地方の花祭りの榊鬼面（写真左）は、たいへん大型で、威厳があり、角や牙を生やしていても、恐ろしい風貌と言うよりは、力強さを表しているような仮面です。岩手県の早池峰神楽の金巻生成面（写真右）は、怨念のために今まさに鬼に変貌しようとする人鬼半々の面です。



前者は、いわゆる善鬼、後者は悪鬼というべきものですが、鬼面には、災いを払う追儺の鬼面もあります。

追儺は、大陸から伝来した宗教行事ですが、後にいろいろな形をとって日本のほぼ全域に広まり、やがて鬼の登場する行事の代表である「節分」として民間に定着しました。

## 2. 追儺の鬼

追儺は、古くは、一年の終わりに宮中から疫鬼を追放する呪術的な行事として『延喜式』（平安初期の年中行事や制度について記したもの）などに現れます。

行事の内容は、中国の行事をそのまま模倣したもので、方相氏と呼ばれる黄金の四つ目の仮面を付けた祭りの主役が、従者を率いて声をあげ、宮中の鬼を追うというものでした。

方相氏の姿は、中国周代の官制を記した書『周礼』や周末から秦・漢代の儒者の古礼に関する説を集めた書『礼記』によると、「熊皮を蒙り、黄金四目、玄衣朱裳、才を執り盾を揚ぐ」とあり、容貌が極めて奇怪で威容であったことがわかります。

中国では、仮面を被った神によって災いが除かれるという考えは、この『周礼』にあらわれる方相氏が最初とされています。目にみえない鬼を奇怪で威容な者が追うというこの行事は、日本においても11

世紀頃まで行われ、平安京の街や貴族の私邸などに年中行事として移行していきました。そして、12世紀にはいると、寺院の行事のなかに「鬼」や「追儺」があらわれます。

この行事は、年の初めに行われる法要に付随して行われていて、目に見えないはずの疫鬼が、ここではすでに擬人化されて仮面をつけて現われ、方相氏に代って仏法の守護神が追い払うという形式に転換していきました。

### 3. 中国の追儺行事と面

日本においては疫鬼として追われるようになった鬼ですが、すでに方相氏の伝統が廃れてしまっている中国にあって、庶民の間に伝承されている追儺行事「儺戯」の中に現われる鬼は、仮面をつけた恐ろしげな風貌の神が、災いをはらい、幸福をもたらすという、方相氏以来の原初的な姿をしていると考えられています。

追儺行事は、文化大革命時代には迷信とされて、公に催すことができませんでした。そればかりか、面や道具が焼かれることさえありました。革命後、庶民の間にもどり、本格的に研究も進みました。

江西省南豊県石郵村に伝わる追儺行事は、旧正月一日の前日から20日ごろまでの間行われます。

行事は、前段が仮面芸能、後半が鬼やらいという内容で、全編にわたって重要な役割を占める「開山」は、日本の鬼の風貌に非常に良く似ていることがわかります。(写真右)

開山は、仮面芸能の最初に登場し、場を清めるはたらきを担っていると言われていています。手には斧を持ち、跳ねる所作が特徴です。仮面は黒地に金色の目、炎が立っているような眉、きゅっと閉めた口に牙が覗き、額に鏡、頭に2本の角を生やしています。

中国の儺戯の研究者である廣田律子神奈川大学助教授は、前述のような特徴の他に、開山を代表とする恐ろしげな容貌の面は、目が飛び出ていること、白目をくりぬいて黒目を残していること(日本の仮

面にはない特徴)を指摘されています。

### 4. 日本の追儺面

日本の追儺面は、大陸から伝播した時の受け手が宮廷であり寺社であったことから、古いものは主に寺社に残されています。高野山の鎮守社・天野社に伝来の青鬼面は、正和2年の年号が記されている追儺の面で、赤青の対で残されています。耳が大きく、火炎の眉、目が飛び出しています。

また、運慶の作と伝えられる愛知県瀧山寺の追儺面は、祖父鬼・祖母鬼・孫鬼と呼ばれています。特に祖父鬼・祖母鬼面は、大型で、側頭まで覆い、目は別材をはめ込んで作り、全体の意匠が大変大胆で力強い造形です。

追儺行事の盛んな近畿地方、特に兵庫県を中心とした地域に伝えられている追儺の面は、八正寺のように彩色が良く技巧的で、阿吽の形をとっているものもありますが、鬼走りやだだ押しに登場する、大型で全く個性的であり、鬼の姿の大きな要素であるところの「異貌」をそのままにした面も数多く見受けられます。

岩手県水沢市の黒石寺に伝わる蘇民祭の鬼子面も面そのものは追儺の面ですが、この面が登場する鬼子登りと称する行事には追儺の要件が明確ではありません。

寺社では、正月7日の修正会の結願の行事として定着した鬼やらいですが、民間においては、鬼の姿はまだまだ一定しておらず、見えないもの、恐ろしい容貌のもの、奇怪なものという観念で鬼を考えていたと思われます。

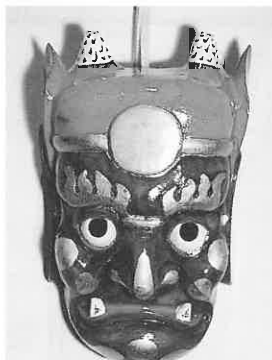
### 5. おわりに

日本の鬼の姿は、様々な要素が混じりあって独特のものとなったと言われています。

面に表現された鬼の特徴としては、一つには「異貌」であること、力強さを表現していることが挙げられます。

闇をも支配したかのように見える現代ですが、神秘的なものに対する興味はむしろ強まっているように思います。仮面にあらわされた鬼の姿には、人々の不安と期待が表されているように思うのです。

(ちばじゅんこ：北上市立鬼の館専任研究員)



# 事業日誌

- |                      |                             |  |
|----------------------|-----------------------------|--|
| 4/18 NTTからエドヒガン桜贈呈   | 6/6 読売新聞東北版で館PR             | 8/3 博物館実習生受入                               |
| 4/18 全国鬼サミット関係課長会議   | 6/13 前庭植栽工事                 | ~8/10                                      |
| 4/18 岩手放送・テレビ岩手・めんこい | ~7/28                       | 8/6 岩手日報で鬼サミットPR                           |
| ~5/1 テレビで館PR         | 6/15 瓦版6月号発行                | 8/6 第1回企画展：中国の仮面写真展                        |
| 4/20 市内博物館等連絡会議      | 6/23 加藤ミサ子氏から庭木寄贈           | ~9/10：図録発行                                 |
| 4/20 岩手日報で鬼の館をPR     | 6/24 田村トシ氏から庭木寄贈            | 8/7 みちのく芸能まつり                              |
| 4/20 一日郵便局長に館長門屋光昭   | 6/24 岩手日報で鬼の館をPR            | ~8/8                                       |
| 4/20 瓦版4月号発行         | 6/25 鬼の館芸能公演：二子鬼剣舞          | 8/8 全国鬼サミット・IN・北上開催                        |
| 4/23 鬼の館芸能公演：鬼柳鬼剣舞   | 6/30 鬼の館常設展示図録発行            | (15市町村参加)                                  |
| 4/23 河北新報で鬼の館をPR     | 7/5 岩手日々で毎週木曜日PR            | 8/8 テレビ神奈川：鬼の館取材                           |
| 4/24 平成6年度 新収集資料展    | 7/9 鬼っこわんぱく講座：鬼の絵本をつくろう20名  | 8/9 鬼シンポジウム開催180名                          |
| 4/25 前庭植栽工事都市計画課協議   | 7/9 高橋富芳氏から獅子頭寄贈            | 8/21 岩手日々で収蔵資料紹介                           |
| 4/25 河北新報で鬼の館をPR     | 7/13 鬼サミット関係課長会議            | ~9/3                                       |
| 4/26 河北新報で鬼の館をPR     | 7/19 朝日グラフ全国版で館をPR          | 8/27 電通：鬼の館を取材                             |
| 5/8 記者会見全国鬼サミットの件    | 7/18 報道関係者と懇談会              | 8/27 第1回鬼学講座（開講式） 宮城の鬼：宮城教育大学講師 小野寺正人氏 22名 |
| 5/9 岩手日報・産業経済新聞取材    | 7/18 瓦版7月号発行                | 8/27 瓦版8・9月号発行                             |
| 5/10 瓦版5月号発行         | 7/20 岩手県博物館等連絡協議会           | 8/29 読売新聞で鬼の館企画展PR                         |
| 5/24 IBCラジオ中継で館をPR   | 7/23 鬼の館芸能公演：赤沢鑑剣舞          | 9/15 第2回企画展                                |
| 5/27 東北レジャー情報誌で館PR   | 7/26 朝日新聞で鬼サミットPR           | ：岩手の河童たちポスターでPR                            |
| 5/28 鬼の館芸能公演：口内鬼剣舞   | 7/27 毎日新聞で鬼サミットPR           | 9/21 東北地区博物館等協議会総会                         |
| 5/30 大乗神楽権現様展        | 7/29 第1回企画展PRチラシ発行          | ~9/22 研修会                                  |
| ~6/4                 | 7/30 鬼っこわんぱく講座：鬼の絵本をつくろう20名 | 9/23 鬼の館芸能公演：道地ひなこ剣舞                       |
| 6/3 鬼の館開館一周年記念式典     | 7/30 鬼っこわんぱく講座：鬼の絵本をつくろう20名 | 9/23 第2回鬼学講座：撫牛子八幡宮・鬼神社22名                 |
| ：鬼剣舞三世交流会（共催）        | 7/31 毘沙門天複製依頼               | ~9/24                                      |
| 6/4 第2回大乗神楽大会（共催）    | ~3/31                       |  |

# 入館状況

H7.4.1~H7.9.30 開館日数 156日 単位：人

	小中学生	高校生	一般	計
個人	3,488	412	25,384	29,284
団体	360	69	8,183	8,612
無料	849	60	1,262	2,171
計	4,697	541	34,829	40,067

# 利用案内

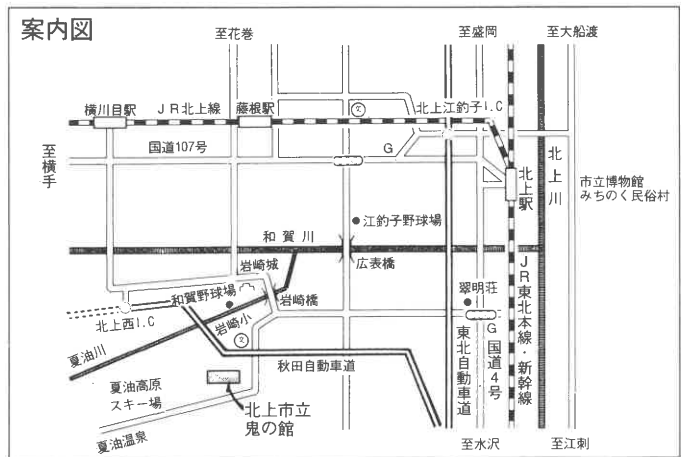
**開館時間** 午前9時から午後5時まで。  
 なお、入館は午後4時30分まで。

**休館日** 毎週月曜日、国民の祝日の翌日、  
 年末年始(12月28日~1月4日)、  
 館内整理日(11月27日~30日)。

**入館料** 一般 300円(250円)  
 高校生 200円(150円)  
 小中学生 150円(100円)  
 ( )内は20人以上の団体料金。

なお、市内の学校の児童生徒が  
 学習活動で利用するとき、毎月  
 第2・4土曜日に利用する市内  
 の小中学生は入館料免除。

**交通案内** ・JR北上駅よりバスで25分。  
 煤孫経由横川目行、瀬美温泉行「岩崎橋」下車徒歩10分。夏油温泉行(季節営業-5月~10月)「鬼の館前」下車。  
 ・JR北上駅より車で20分。  
 東北自動車道北上江釣子I.C、秋田自動車道北上西I.Cからともに車で15分。



**北上市立鬼の館だより**

第3号 1995.9.30

編集・発行 北上市立鬼の館

〒024-03 北上市和賀町岩崎16地割131番地

TEL・FAX 0197(73)8488